

資料9

9-6 名古屋市立大学病院

視察項目	コメント
交通(案内図)の便利性	地下鉄桜山駅より徒歩1～2分
厚生省の許可証表示	無。医科、歯科ともに行っていない
主施設の研修プログラム	医科(2年)と同じ(歯科は1年)
研修方法	全体講義(医科と同一) + 歯科のみ + 個別の指導
具体的目標設定	厚生省の目標に準ずる
評価法	自己評価、指導医評価、各ABC評価
研修修了の認定	医科、歯科主施設、従施設指導医の全体会議にて
研修修了証の発行	病院長名にて歯科のみ発行
主施設に連携する従施設数	1施設(名古屋市立東市民病院)
従施設への派遣研修医数	2名(4ヵ月×3、各期1名)
従施設への連携	正式な組織はないが他目的の会議時に打合せを行う
運営委員会・指導医委員会	症例検討会時、歯科のみ指導者会議(週1回)
研修指導歯科医師数	主施設(6名)従施設(1名)
常勤衛生士数	0名(看護婦2名、看護助手2名)
常勤技工士数	1名
一日平均患者数	42名
総研修医数	5名
現時点での定員	5名(有給2名、無給3名)
最大受入可能研修医数	5名
奨学金支給額	名古屋市より月額給与16.2万円支給(2名のみ)
支給日	—
支給方法	振込
控室・ロッカー	1名につき1個
白衣・院内履き	支給
ユニット数	10台(研修医名につき台)
指導場所(研修室、会議室)	医局
教育設備、機器、備品	医局
その他の備品	実験室(病理系)
診療時間	9:00～17:00
研修時間	9:00～17:00
週休(年休)等	2日(日)
休暇届	有給、無給を問わず必要
社会保険	有
時間外研修の実態	17:00～20:00(～21:00)
アルバイト(残業)の取扱	無(無給は週1回許可)

資料9

研修医の勤務状況の評価	出席簿
担当医の指導法	マンツーマン
衛生士との連携	看護婦と連携
技工士への連携	良好
インフォームドコンセント	研修医が行う(指導下にて)
カルテの記載	研修医が行う(指導下にて)
研修要項	医科と同一のものを使用
研修医の記録日誌	医科と同一のものを使用。手帳式
一日平均担当患者数	3～4名
診療内容	全般、午後は外来小手術など
診療過誤の有無・対応	無、賠償責任保険には全員加入
院内研修会・講義	症例検討会など
技工研修	簡単な症例は各自で行う

診療所の全体評価

10台のユニットが機能的に配置

複合研修方式の主施設の特徴

研修1年目は医科との合同研修を行うため、全身的な知識を修得できる。ユニット10台中4台は初診用、1台は感染患者用、午後には3台が外来小手術用に割り当てられ、小手術症例が多く修得できる。

主施設と連携する従施設の特徴

以前は面接のみで選考。平成11年度より試験、面接を行い、13名前後から5名を選考。うち2名を有給とした。現在の従施設に対しあまり期待していない。今後、単独方式での研修を検討している。

その他

各大学の臨床実習の程度、内容の格差をなくして欲しい。卒前教育と卒後教育担当者との連携が必要である。

資料9

9-7 鳥取大学医学部附属病院

視察項目	コメント
交通(案内図)の便利性	米子駅から約1Km
厚生省の許可証表示	表示していない
主施設の研修プログラム	独自のプログラムあり
研修方法	2年間の複合方式
具体的目標設定	あり
評価法	なし。特に定めていない
研修修了の認定	なし。特に定めていない
研修修了証の発行	なし。特に定めていない
主施設に連携する従施設数	1施設
従施設への派遣研修医数	0名
従施設への連携	なし
運営委員会・指導医委員会	なし
研修指導歯科医師数	主施設(8名)
常勤衛生士数	1名
常勤技工士数	2名
一日平均患者数	60名週1日は手術日
総研修医数	9名1年目6人, 2年目3人
現時点での定員	決っていない
最大受入可能研修医数	決っていない
奨学金支給額	月額17万円
支給日	16日
支給方法	口座振り込み
控室・ロッカー	1名につき1個
白衣・院内履き	1名につき1個
ユニット数	8台(研修医名につき台)
指導場所(研修室、会議室)	病棟カンファレンスルーム
教育設備、機器、備品	—
その他の備品	スライド映写機ほか
診療時間	9:00~17:00
研修時間	同上+夜間自主的に
週休(年休)等	2日(土日)
休暇届	医局長あて
社会保険	あり。職員と同じ
時間外研修の実態	要請なし
アルバイト(残業)の取扱	許可している

資料9

研修医の勤務状況の評価	なし
担当医の指導法	医局員で分担
衛生士との連携	なし。一人で診療する
技工士への連携	指示書を書く
インフォームドコンセント	やらせているがガン告知はやらない
カルテの記載	書かせている
研修要項	プログラムによる
研修医の記録日誌	なし
一日平均担当患者数	決っていない
診療内容	2年目なら何でもやる
診療過誤の有無・対応	インフォームドコンセントのトラブル
院内研修会・講義	あり
技工研修	なし

診療所の全体評価

新しくきれいで設備も整っている

複合研修方式の主施設の特徴

抜歯が5割
紹介4割
選抜試験あり

主施設と連携する従施設の特徴

外科が中心

その他

資料9

9-8 高知医科大学医学部附属病院

視察項目	コメント
交通(案内図)の便利性	市街地より離れ、かなり不便である
厚生省の許可証表示	ない
主施設の研修プログラム	2年制
研修方法	実技中心
具体的目標設定	診察項目にそって設定している
評価法	なし
研修修了の認定	なし(途中脱落のチェックのみ)
研修修了証の発行	なし
主施設に連携する従施設数	1施設
従施設への派遣研修医数	2名(週1日ずつの派遣となっている)
従施設への連携	随時行っている
運営委員会・指導医委員会	なし
研修指導歯科医師数	主施設(4名)、従施設(1名)
常勤衛生士数	1名+看護婦1名
常勤技工士数	2名(1名は非常勤)
一日平均患者数	35~40名
総研修医数	5名
現時点での定員	1学年3名×2学年
最大受入可能研修医数	7~8名
奨学金支給額	月額17万円~18万円(年度により多少異なる)
支給日	日給月給で20日
支給方法	支払方法
控室・ロッカー	1名につき1個
白衣・院内履き	1名につき2個
ユニット数	7台(研修医1名につき1台)
指導場所(研修室、会議室)	医員室、セミナー室、外来、病棟
教育設備、機器、備品	特に配備したものはないが、抄読会、カンファレンス
その他の備品	医局会などと共同利用の形をとっている
診療時間	9:00~17:00
研修時間	8:30~17:00
週休(年休)等	2日(0日)
休暇届	なし
社会保険	社会保険
時間外研修の実態	認めていない
アルバイト(残業)の取扱	2日まで

資料9

研修医の勤務状況の評価	出勤簿への捺印
担当医の指導法	マンツーマン
衛生士との連携	指示する立場にいない
技工士への連携	技工指示書への記載
インフォームドコンセント	指導医の裁量で行っている
カルテの記載	担当医員がチェックしている
研修要項	特になし
研修医の記録日誌	特になし
一日平均担当患者数	10から12名
診療内容	歯科治療全般
診療過誤の有無・対応	過去1例(リーマーの誤嚥)⇒解決
院内研修会・講義	口腔外科独自のものをやっている
技工研修	なし

診療所の全体評価

口腔外科臨床を中心にして、普通よりやや濃密な研修が行われているが、口腔外科に偏っている印象を得た。

複合研修方式の主施設の特徴

歯科医療全般にわたる治療を行っている。

口腔外科診療と一般歯科診療の研修比率は、概ね4:6である。

主施設と連携する従施設の特徴

臨床病理の立場からの指導や、口腔内科学的なものの見方を教えてくれるので助かっている。

その他

なし

資料9

9-9 熊本市立熊本市民病院

視察項目	コメント
交通(案内図)の便利性	市街地から距離はあるが、交通の便は良い
厚生省の許可証表示	病院長室に掲示
主施設の研修プログラム	1年制
研修方法	予診、治療計画、診療
具体的目標設定	1年間で臨床一般に対応できる歯科医師の養成
評価法	財団の到達目標のⅠおよびⅡの修得
研修修了の認定	途中で退籍するほかは特はない
研修修了証の発行	病院長より授与
主施設に連携する従施設数	1施設
従施設への派遣研修医数	1名
従施設への連携	6ヵ月毎の合同委員会
運営委員会・指導医委員会	プログラム委員会として年4回開催
研修指導歯科医師数	主施設(2名)、従施設(4名)
常勤衛生士数	4名、看護婦0名
常勤技工士数	0名
一日平均患者数	45名
総研修医数	4名
現時点での定員	3名
最大受入可能研修医数	4名
奨学金支給額	月額約17万円
支給日	毎月末日
支給方法	現金支給
控室・ロッカー	1名につき1個
白衣・院内履き	個人負担(洗濯は無料)
ユニット数	3台(研修医3名につき2台)
指導場所(研修室、会議室)	週1回
教育設備、機器、備品	スライドプロジェクターやOHPを医局と共同で使用している
その他の備品	スライド映写機ほか
診療時間	8:30~17:15
研修時間	8:30~18:00
週休(年休)等	2日(0日)
休暇届	口頭
社会保険	健康保険
時間外研修の実態	病院として従事しない
アルバイト(残業)の取扱	従施設での当直勤務に対する報酬

資料9

研修医の勤務状況の評価	医局事務員がチェック
担当医の指導法	患者中心
衛生士との連携	うまくいっている
技工士への連携	技工指示書による
インフォームドコンセント	特に行っていない(ネームプレートは「医員」)
カルテの記載	指導医によるカルテの点検
研修要項	4月の初めに3日間のオリエンテーション(主従合同)
研修医の記録日誌	フォーマットを用意して記載させている
一日平均担当患者数	15名
診療内容	歯科一般、形成外科や耳鼻咽喉科との連携
診療過誤の有無・対応	患者との人間関係でトラブルが生じたが解決した
院内研修会・講義	週1回
技工研修	なし

診療所の全体評価

指導医の情熱が研修医に伝わり、到達目標のⅢの一部でも指導できたという想いが確かに感じられた。従施設との連携も円滑に行われ良好な研修が実施されている。

複合研修方式の主施設の特徴

一般歯科診療の基礎固め、特に将来高度な医療を目指す際に必要な基礎的事項を目途としている。また、全身を考えた歯科医療を実践するよう指導している。

主施設と連携する従施設の特徴

従施設は、自己完結型の施設であり、一般歯科診療よりも口腔外科を主体とした診療を経験する場として位置付けている。研修後も相談連携できる施設である。

その他

なし

資料9

9-10 自衛隊中央病院

視察項目	コメント
交通(案内図)の便利性	池尻大橋からタクシーで5分
厚生省の許可証表示	表示していない(医局に表示)
主施設の研修プログラム	各自衛隊病院共通のプログラムあり
研修方法	2年間の複合方式
具体的目標設定	あり
評価法	6か月ごとに評価する。
研修修了の認定	歯科部長判定
研修修了証の発行	あり
主施設に連携する従施設数	1施設(防衛医大附属病院)
従施設への派遣研修医数	2名
従施設への連携	2年目に3か月間
運営委員会・指導医委員会	なし
研修指導歯科医師数	主施設(6名)従施設(一名)
常勤衛生士数	4名
常勤技工士数	5名
一日平均患者数	70名
総研修医数	8名(1年目4人, 2年目4人)
現時点での定員	1学年4名
最大受入可能研修医数	1学年5~6名
奨学金支給額	月額30万+10万(医官手当)
支給日	18日
支給方法	口座振り込み
控室・ロッカー	1名につき1個机もあり
白衣・院内履き	1名につき3枚
ユニット数	15台(研修医2名につき1台)
指導場所(研修室、会議室)	カンファレンスルーム・講堂
教育設備、機器、備品	図書館, スライド
その他の備品	スライド映写機ほか
診療時間	9:00~16:00
研修時間	8:30~17:00
週休(年休)等	2日(土日)
休暇届	冠婚葬祭のみ許可・勤務は24時間体制
社会保険	あり。職員と同じ自衛官医療証
時間外研修の実態	米軍人の英会話教室・ケーススタディ
アルバイト(残業)の取扱	許可していない

資料9

研修医の勤務状況の評価	毎朝朝礼
担当医の指導法	チームを組んでローテーション
衛生士との連携	1年目は2人1組で診療する。
技工士への連携	指示書を書く
インフォームドコンセント	やらせている
カルテの記載	書かせている(指導医のチェックあり)
研修要項	あり
研修医の記録日誌	ケース録はあり
一日平均担当患者数	大体1時間に1人
診療内容	2年目なら何でもやる
診療過誤の有無・対応	インフォームドコンセントのトラブル
院内研修会・講義	あり
技工研修	自主的にならあり

診療所の全体評価

研修医の受入態勢は完備している

複合研修方式の主施設の特徴

ボーナス5.5ヶ月
自衛隊関係者のみ
保険診療のみ

主施設と連携する従施設の特徴

口腔外科

その他

補助金はなし
幹部衛生官として育てる

資料9

9-11 自衛隊岐阜病院

視察項目	コメント
交通(案内図)の便利性	駅から徒歩20分
厚生省の許可証表示	診療室に掲示
主施設の研修プログラム	独自のプログラムに則って行う
研修方法	到達目標にしたがって行う
具体的目標設定	一般臨床専門
評価法	主従として別々に評価
研修修了の認定	修了証を発行する予定
研修修了証の発行	あり
主施設に連携する従施設数	1施設(防衛医大)
従施設への派遣研修医数	1名
従施設への連携	あり
運営委員会・指導医委員会	年1回防衛医大とともに行う
研修指導歯科医師数	主施設3名
常勤衛生士数	3名(防衛庁技官)
常勤技工士数	4名
一日平均患者数	50名程度(30~50名)
総研修医数	2名
現時点での定員	2名
最大受入可能研修医数	決まっていない
奨学金支給額	給料として月額55万6160円
支給日	月に一度
支給方法	振込み
控室・ロッカー	医官室にあり
白衣・院内履き	制服支給、白衣支給
ユニット数	6台
指導場所(研修室、会議室)	あり
教育設備、機器、備品	コンピューター、コピー機あり
その他の備品	スライド映写機ほか
診療時間	8:00~17:00
研修時間	8:00~17:00
週休(年休)等	2日(土日)
休暇届	院長許可であり(担当指導医が許可)
社会保険	民間と同じ扱い
時間外研修の実態	なし
アルバイト(残業)の取扱	なし

資料9

研修医の勤務状況の評価	担当指導医が行っている
担当医の指導法	指導医とペアでその都度診療室内で行う
衛生士との連携	ブラッシング指導等連携可能
技工士への連携	指示書の指導あり
インフォームドコンセント	初診担当ほか歯科的なことは説明させる
カルテの記載	自衛隊で決めている書式に記載
研修要項	行わせている
研修医の記録日誌	日誌あり、記録として残す
一日平均担当患者数	5～10名
診療内容	簡単な処置から指導し、現在は一人で診療
診療過誤の有無・対応	なし(診療過誤は管理官の責任)
院内研修会・講義	水金に勉強会(その都度行う)
技工研修	最初のうち行うが現在はなし

診療所の全体評価

自衛隊の病院という特殊性があり、良好な研修が実施されている。

複合研修方式の主施設の特徴

防衛医大口腔外科、麻酔を中心に行う。
研修プログラム4ヵ月で緊急処置主体

主施設と連携する従施設の特徴

2年制をとっている。
保険で決められている診療(自費は行わず)
2年修了後、全国の自衛隊駐屯地に派遣

その他

基地に2500名勤務、家族を含め若い人が多い。
歯科の入院患者なし(病棟はあり)

資料9

9-12 日本大学松戸歯学部付属歯科病院

視察項目	コメント
交通(案内図)の便利性	JR松戸駅から日大病院行きバス15分
厚生省の許可証表示	受付
主施設の研修プログラム	臨床研修要項あり
研修方法	一部複合方式(平成10年度は単独)
研修期間	1年間(4月～3月)
具体的目標設定	要項参照
評価法	総合評価(初期研修、患者研修、セミナー、特別カリキュラム)
主施設に連携する従施設数	5施設
従施設への派遣研修医数(総研修医の割合から見て)	0名。本年度は間に合わず
運営委員会・指導委員会	あり
従施設への連携	本年度はなし
研修指導歯科医師数	111名(主任指導医17名)
常勤衛生士数	24名
常勤技工士数	7名
常勤歯科助手数	0名
一日平均患者数	600名
研修医の定員数	42名
収容定員数	70名
奨学金支給日	6か月ごと
支給方法	銀行振込
支給額	月額1万円
研修終了の認定	グループ総括医師の総合評価→臨床研修医委員会
研修終了の認定証	病院長と学部長名で
控室・ロッカー	控え室は狭い。ロッカー支給。
白衣・院内履き	支給
ユニット数	総数210台研修医用40台
指導場所(研修室、会議室)	あり
教育設備、機器、備品	豊富
その他の備品	豊富。コンピューター関係はとくに充実
診療時間	9:00～17:00(土9:00～12:00)
研修時間	9:00～17:00各科バラバラ
研修医の勤務状況の評価	ミーティング、セミナーのみ出欠確認
休暇届	なし
時間外研修の実態	なし
時間外アルバイト(残業)の取扱	自由

資料9

週休(年休)等	4週6休
夏期休暇	3週間
院外研修	日大板橋病院(1週間)・都老人医療センター(1週間)
社会保険	なし
担当医の指導体制	グループごとに担当指導医
衛生士との連携	外注
技工士への連携	良好。指導医と行う
インフォームドコンセント	指導医と行う
カルテの記載	指導医がチェック
研修医の記録日誌	日直制で担当者が記載
診療過誤	特になし。患者からのクレーム平成9年度2件
院内研修	セミナー。特別カリキュラム(選択コース)あり
技工院内研修	院外技工も可
診療内容	個人の能力により担当医が判断

診療所の全体評価

- 希望の科に配属されており、医局に残るための研修の感あり。
- 研修医への配当患者数が少ない。

複合研修方式の主施設の特徴

各科に配属となるが、特別カリキュラムで他科のコースを選択し受講させる。また総合診療室で、初診患者を配当し(年間2名)一貫した治療を行なっている。

主施設と連携する従施設の特徴

指導医の意見

- 指導医の専任化が必要であるも、その身分保障がない。
- 研修目標が多すぎる。
- 従施設の条件を緩和してほしい。

資料9

9-13 愛知学院大学歯学部附属病院

視察項目	コメント
交通(案内図)の便利性	駅から2分
厚生省の許可証表示	表示していない
主施設の研修プログラム	あり。各科配属
研修方法	複合方式
具体的目標設定	あり。最後に各自の症例報告
評価法	特に統一して決められていない
研修修了の認定	指導医委員会から運営委員会へ
研修修了証の発行	あり。学長と病院長名で出す
主施設に連携する従施設数	2施設平成11年から3施設
従施設への派遣研修医数	3名
従施設への連携	口腔外科からのみの派遣
運営委員会・指導医委員会	あり
研修指導歯科医師数	主施設(106名)従施設(一名)
常勤衛生士数	35名
常勤技工士数	13名
一日平均患者数	575名
総研修医数	44名
現時点での定員	希望者がこれしかない
最大受入可能研修医数	平成13年に新病院完成予定
奨学金支給額	年額20万円
支給日	年2回。7・12月
支給方法	振り込み
控室・ロッカー	1名につき1個
白衣・院内履き	支給していない
ユニット数	161台(新病院には200台)
指導場所(研修室、会議室)	新病院にはある
教育設備、機器、備品	補助金のうち1千万円分充当
その他の備品	スライド映写機ほか
診療時間	9:00~16:00
研修時間	8:30~16:00
週休(年休)等	1.5日(土曜午後・日曜日)
休暇届	各医局で許可
社会保険	なし
時間外研修の実態	各医局で手伝いなど
アルバイト(残業)の取扱	許可している

資料9

研修医の勤務状況の評価	タイムカード・コンピュータ管理
担当医の指導法	1対医局員複数
衛生士との連携	あり
技工士への連携	技工は自分でやる
インフォームドコンセント	やらせている
カルテの記載	研修医が書く
研修要項	あり
研修医の記録日誌	なし。ケースカードあり
一日平均担当患者数	5～8名
診療内容	個人差がある
診療過誤の有無・対応	2件あった。保険に入ってる
院内研修会・講義	週1回各科講習
技工研修	院内技工室であり

診療所の全体評価

新病院では設備,態勢共に整う

複合研修方式の主施設の特徴

新病院に専用フロアできる
指導医に月1万円の手当て

主施設と連携する従施設の特徴

口腔外科からのみの派遣

その他

従施設をもっと増やしたい

資料9

9-14 揖斐総合病院

視察項目	コメント
交通(案内図)の便利性	揖斐駅からバス5分、徒歩3分
厚生省の許可証表示	診療室ホワイトボードにコピー掲示
主施設の研修プログラム	岐阜大学と揖斐独自のプログラムに則って行う
研修方法	到達目標にしたがって行う
具体的目標設定	一般臨床専門
評価法	個人的な評価は行う
研修修了の認定	今期は研修医なしのため修了証はなし
研修修了証の発行	今期は研修医なしのため発行なし、昨年は発行
主施設に連携する従施設数	本年度から単独に移行
従施設への派遣研修医数	本年度から単独に移行
従施設への連携	なし
運営委員会・指導医委員会	勉強会として一緒に開催
研修指導歯科医師数	主施設3名
常勤衛生士数	4名
常勤技工士数	1名
一日平均患者数	55～56名
総研修医数	1名
現時点での定員	1名
最大受入可能研修医数	1名
奨学金支給額	給料として月額17万円程度
支給日	月に一度
支給方法	振込み
控室・ロッカー	1名につき1個
白衣・院内履き	年2回支給(白衣・院内ばき)
ユニット数	5台
指導場所(研修室、会議室)	医局と図書館にあり
教育設備、機器、備品	コンピューター、コピー機あり
その他の備品	スライド映写機ほか
診療時間	8:30～17:15
研修時間	8:00～17:15
週休(年休)等	2日(土日)
休暇届	3人で各々対応、院長の許可で休暇OK
社会保険	政府管掌の保険
時間外研修の実態	勉強会として研修あり(17:15以降病室回診)
アルバイト(残業)の取扱	認めず

資料9

担当医の指導法	指導医の介助として診療室内で行う
衛生士との連携	ブラッシング指導等連携可能
技工士への連携	技工物の製作も行う。指示書の指導あり
インフォームドコンセント	うまくないので行わせない。見学させる
カルテの記載	レセプトの点数はかかせ、チェックする
研修要項	行わせている
研修医の記録日誌	行った症例の流れやメモをさせる
一日平均担当患者数	10名程度、昼から2人で行う
診療内容	インレー形成、抜髄(抜歯はさせない)
診療過誤の有無・対応	なし
院内研修会・講義	特別な勉強会をその都度開催
技工研修	現場サイドで指導

診療所の全体評価

本年度から単独方式を採用しているが、本年度は研修医の希望者がなし

複合研修方式の主施設の特徴

本年度から単独方式に変更(条件に達したため)
昨年まで岐阜大学と複合方式をとっていた
2年制をとっている

主施設と連携する従施設の特徴

農協の公的病院(揖斐人口2万人、歯科医院5件)
単独方式のため、研修修了後の勤務先がない
昨年研修医は長崎大出身

その他

補助金は人件費に使用せず、物の給付のみに使用
病棟2室あり(入院手術月に2、3件あり)

資料10

10-1 入江歯科医院(主施設:日本歯科大学歯学部附属病院)

視察項目	コメント
交通(案内図)の便利性	駅から見える位置にあり
厚生省の許可証表示	受付に提示
主施設の研修プログラム	1年。2カ月×5期に分け、1、2期、3、4期に出向
研修方法	臨床を中心に
具体的目標設定	主施設の目標に準ずる
評価法	指導医評価、自己評価、3段階評価
研修修了の認定	主施設運営委員会にて認定
研修修了証の発行	主施設病院長名にて発行
主施設に連携する従施設数	16施設
従施設への派遣研修医数	4名
従施設への連携	院外研修担当者委員会・他
運営委員会・指導医委員会	主・従の合同指導医委員会、年3回開催
研修指導歯科医師数	主施設(114名)従施設(1名)
常勤衛生士数	5名
常勤技工士数	3名
一日平均患者数	一名
総研修医数	4名(1期2名)
現時点での定員	2名
最大受入可能研修医数	4名(年間)
奨学金支給額	月額4万円
支給日	月末
支給方法	現金支給
控室・ロッカー	各自に貸与
白衣・院内履き	大学貸与のものを使用
ユニット数	8台
指導場所(研修室、会議室)	研修室で行う
教育設備、機器、備品	スライド・ビデオ装置、黒板
その他の備品	—
診療時間	10:00～19:30
研修時間	10:00～19:30
週休(年休)等	土、日曜(2日)
休暇届	要
社会保険	なし
時間外研修の実態	なし
アルバイト(残業)の取扱	なし
研修医の勤務状況の評価	タイムカードで確認
担当医の指導法	見学、診療をマンツーマンで行う
衛生士との連携	良好
技工士へとの連携	指示書による連携
インフォームドコンセント	指導医とともに進行

資料10

カルテの記載	行わせている
研修要項	主施設のものを使用
研修医の記録日誌	研修内容を記入する
一日平均担当患者数	10名弱
診療内容	見学、診療
診療過誤の有無・対応	なし
院内研修会・講義	月1回
技工研修	なし

診療所の全体評価

人の管理が特徴、インプラント認定医取得

指導医からの意見

期間4カ月は妥当。女性より男性の方がよい。
できれば事前に面接をしたい。

研修医からの意見

研修医Aは、不満なし。

研修医Aの話では研修医Bは診療姿勢、喫煙、手袋等で担当医と口論してから1週間で来なくなった。

抜髄、根充、抜歯、インプラント見学補助、
インレーセット他

その他

補助金は図書、器材の名目で使用（昨年）

マナーを重視（JALのマナーセミナーのイントラコースを取り入れ、きちんとした対応ができるように配慮